

瑞穂鯨城会行事「いいとこ巡り」徳川美術館見学会に参加して



2月6日（火）開催中の「特別展 尾張徳川家の雛まつり」を見学する行事が企画され、高校生の頃古い美術館で一度見学したが、新美術館になってからは、見たことがなかったので、さっそく参加することとした。

当日、待ち合わせは、オアシス21のバスターミナル、または現地徳川園西口「黒門」前、のいずれかとのことで、地下鉄名城線「茶屋ヶ坂」乗り換え基幹バスで、徳川園へ行くのが便利と考え、現地集合を選択、途中道を間違えるなど若干トラブルはありましたが、時間通り集合場所に到着。参加者は12名。

1. 徳川美術館

入館料 一人1600円（シニア割引200円あり）

入館すると、入り口ロビーで、ボランティア解説員によるわかりやすい説明があり、終了後早速展示室に行く。

第一展示室は、武具・刀剣の展示、第二展示室は、茶室、第三展示室は、書院かざりの展示、第四展示室は、能舞台の復元、第五展示室は、大名や夫人たちが、私的な生活の場「奥」で使われた、生活用品など、第六展示室は、国宝「源氏物語絵巻」の複製、映像等の展示、第七、第八、第九展示室が、雛人形の展示。雛人形は、徳川家のものの他、民間から寄贈されたものも展示、いずれも、立派で、普通の庶民の住宅では、飾る場所がないようなものでした。



2. 徳川園

昼食の予約時間まで、1時間ほどあるので、徳川園で冬牡丹の鑑賞をすることに。
入園料は、美術館入場券の半券と敬老パス提示で一人50円に割引。

陽が陰り風も冷たい中、庭園西側に展示された牡丹を鑑賞。美しさに感動しました。途中幹事が、食事時間の繰り上げを交渉してくれ、12時半食事処「宝善亭」にむかいました。

3. 宝善亭

徳川美術館の離れのようなばしょにある、和食の店です。

参加者は、9名。

雛人形がcaざられた、2階の座敷（机と椅子）で、「雛御膳」という和会席をいただきました。春を感じさせる料理に、日本酒が合うという大変結構な昼食でした。

名古屋文化の奥深さに触れるとともに、おいしい和食と日本酒に陶然とした有意義な一日でした。
世話してくれた幹事さんに深謝。



七福雛



四季桜と寒牡丹



写真提供

写真提供：
32期 田甫 正治
行事総括：
33期 若山 ひろみ